

弟子屈の医療を支える施設



JA北海道厚生連摩周厚生病院



布施医院



美里クリニック



川湯の森病院



弟子屈クリニック

「私は地域の医者であるのと同時に、地域住民でもあるわけです。だから自分が介護を受ける立場になった時のことを考えて、これなら自分も入りたいという

介護事業にも、 地域を活性化する 可能性はある

往診や訪問診療にも出向き、まさに町医者として地域の生活を考える一方で、北海道における地域医療のネットワークづくりにも尽力してきた。

開業間もない1995年には、過疎地の地域医療に熱意を持って取り組もうとする医師を相互サポートするための「北海道地域医療研究会」を立ち上げた。それは地域医療の重大な柱の一つが継続性であり、過疎地域で踏ん張る医師を孤立させず、また最終的にリタイアする時のためには後継者の育成も必要だと、自らの経験を通して痛感したからだった。

温泉があり国立公園の景観にも恵まれた弟子屈で、高齢者にも住みやすい空間を提供すれば、福祉好例の町として都会からの移住者が増える。それにともなっ

場を作ろうと思いました」この10年間、介護分野にも力を入れてきたきっかけを、行木先生はこう語る。

介護保険制度がはじまった2000年にはデイケアセンター「たこ八」を、そして2004年にはグループホーム「あったか家」、2010年にグループホーム「家路」を次々に開設し、併せて訪問リハビリや訪問介護も行なっている。

クリニックの仕事以外に、デイケアセンターやグループホームのお年寄りたちを診回る毎日が多忙を極める。しかし「買物に行けない高齢者への介護サービスや、一人でも安心して暮らせる空間づくりなどまだやるべきことがあるし、医療介護の領域は事業としての可能性もまだまだある」と行木先生はいう。

て地元での雇用も増え、仕事がないために弟子屈を出ていった若者のUターンにもつながるのではないかと、というのだ。

それは、弟子屈クリニックを開業した時に6人だったスタッフが、介護事業が広がったことで現在約60人にまで増えているという事実を踏まえた上での、弟子屈町への提言でもあるかもしれない。



弟子屈の福祉を支える各種施設



グループホーム家路



グループホームあったか家



デイケアセンターたこ八

福祉



弟子屈

弟子屈町の主だった医療機関は、現在2つの病院と3つの診療所で成り立っている。

その1つ、開業18年目の弟子屈クリニックには、1カ月に延患者数1200人以上が訪れる。院長の行木紘一先生は、国立療養所名寄病院や厚岸町立病院での勤務を含めると、30年以上も北海道の地域医療に携わってきた。

多くの田舎がそうであるように、人口約7900人弱の弟子屈町でも、病院にすべての科を設けそれぞれ専門の医師やスタッフを置くのは財政上不可能なことだ。また、夜間の受け入れに対応できるのが病院1カ所のみ、という意味でも医療過疎地といわざるをえない。

だがそんな地域だからこそ、総合医、家庭医としての医師の役割は大きい、と行木先生は言う。

さらに「地域の医療ニーズを考える時、都市部の病院などで専門的な高次医療を受けるのが必要な患者さんは、実際には人口1000人当りで約10人、つまり1%程度。それ以外は地域の家庭医の治療やアドバイスで、ほとんどの病状は安定し、治っている」と、有名な統計を引用しながら説明する。

家庭医とは、患者に配慮した適切な治療やアドバイスを提供し、必要に応じては専門医と連携して治療やケアにあたる医師のこと。地域に根ざし、患者を一人の人間として総合的に診ることから、「何でも診る専門医」と呼ばれることもあるそうだ。

行木先生は病院に來られない高齢者の

地域医療を ここで 実践する。



●なめき こういち／1941年生まれ、千葉県出身。「ドクトルマンボウ」の船医、北京の日本大使館医務官などを経て、北海道の国立療養所名寄病院、厚岸町立病院に勤務。1993年弟子屈町で弟子屈クリニックを開業し、2000年介護保険制度スタートと同時にデイケアセンターを開設する。

行木紘一

※平成27年3月開設予定



養護老人ホーム俣和園／特別養護老人ホーム摩周



弟子屈町デイサービスセンター